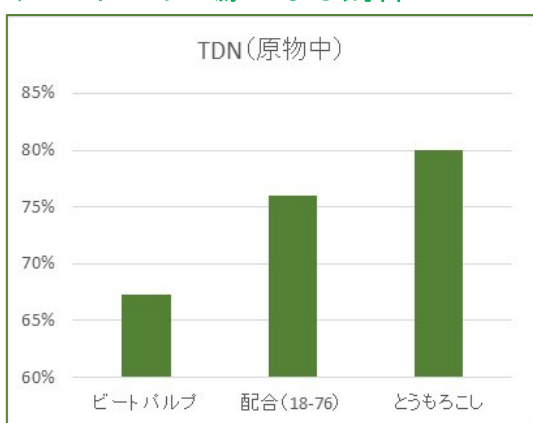


## あしよろ・ハードサポート通信

12月のうちに大雪が降り、寒さは氷点下20℃を記録するほど厳しく、今年は本当にイレギュラーな気候の年でした。そんな今年産の牧草やデントコーンは栄養価が低い傾向で、乳牛や育成牛が例年以上にエネルギー不足になりそうな気配があります。

### ◆ エネルギー源になる飼料



エネルギー不足を補いたいときに選ぶ一般的な飼料は、配合飼料、圧ぺんとうもろこし、ビートパルプです。

左グラフは、飼料の公定規格に基づいたそれぞれのTDN値を示しています。1kg当たりのエネルギー価が一番高いのは圧ぺんとうもろこし(TDN80%)、次いで18-76の配合(TDN76%)、ビートパルプ(TDN67%)ということがわかります。

### ◆ 圧ぺんとうもろこしの特徴



デンプンの豊富な飼料で、エネルギー価が高いのが大きな特徴です。第一胃(ルーメン)でデンプンが発酵し、プロピオン酸が産生されます。このプロピオン酸を原料に、肝臓で乳牛のエネルギー源となるブドウ糖が作られます。また、乳糖もブドウ糖を原料に合成されるため、乳糖が低い場合には、デンプン源飼料を給与するのも良い手です。

### ◆ ビートパルプの特徴



消化性の良いセニと糖由来のエネルギー源です。ルーメン内でセニが発酵すると乳脂肪の元になる酢酸が産生されます。

とうもろこしに比べるとエネルギー価が劣りますが、アシドーシスリスクが低く給与しやすい飼料です。粗飼料が足りない場合は良質なセニ源になりますが、物理性(ガサ)はカバーしづらいため、注意が必要です。

### ◆ 配合飼料の特徴



とうもろこしや大豆粕、ふすまなど様々な飼料原料を一定の割合で混合した飼料で、さまざまなラインナップがあります。近年、泌乳牛では CP18%TDN76%の銘柄が一般的です。配合割合によって飼料の特性もそれぞれなので、特徴をきちんと掴んで給与することがポイントです。配合割合や特徴は、表示票から読み取ることができます。

### ◆ バイパス油脂の活用

わたしたちの食卓と同じく、脂肪は乳牛にとっても高カロリーのエネルギー源です。脂肪酸や脂肪酸カルシウムのようなルーメンバイパス加工された油脂製剤を1日0.1～0.3 kg程度給与することで、大幅なエネルギー補給が期待できます。

まずは手持ちの牧草を粗飼料分析に出してみることをおすすめします。牧草の栄養価が低い場合、例年と同じメニューのままだとエネルギー不足で乳生産量が目減りしたり、受胎成績が落ちたり、全体的な免疫力が下がったり…といったロスがじわじわと出てくる可能性もあります。ボディコンディション、乳量・乳成分の推移を見ながら、この冬は飼料を増給気味でコントロールした方がベターだと思っています。



今年は寒さも厳しいので、寒冷に弱い育成牛の管理も再確認をお願いします。若齢牛が冬場に風邪や下痢になるのは、寒さでエネルギーを消耗し、カロリー不足から免疫力が落ちてしまうことも大きく影響しています。配合飼料の増給に加えて、飼養環境の保温と換気をバランスよく整えてあげてください。  
(久富聡子)

- 
- ・ 1月下旬に営農部・渡邊係長を講師に、繁殖管理についての勉強会を考えています。渡邊係長は昨春まで大規模育成牧場で授精・移植業務をこなしていた人工授精師でもあります。町内にも自家授精をしている方々がいるので、授精師向け情報交換会も開催できたらと思っています。年明けに改めて案内します。ぜひご参加ください。
  - ・ 今年も一年間、大変お世話になり、ありがとうございました。どうぞよいお年をお迎えください。